色にもなる「ヤマブキ」（4月の自然庭園では）～みぬ

このページを印刷する

ク
ス～

このページでは大宮南部浄化センター・みぬま見聞館のトピックスを紹介をします。

色にもなる「ヤマブキ」（4月に自然庭園で観察できる動植物について）

みぬま見聞館の自然庭園では、「花残月（はなのこりづき）」とも言われる4月を迎え、まだわずかばかりの桜も残り、生き物たちが陽春に胸躍らせているかのようです。今月は、そんな暖かな光の中、鮮やかな黄色の花を咲かせるヤマブキについて、お話をさせていただきます。

ヤマブキは、バラ科ヤマブキ属の落葉低木で、名前は春の山を黄色に覆いつくす様子から山春黄（やまはるき）が変化したとか、しなやかな枝が風に揺れる様から、山に振袖の振りと書く山振り（やまふり）が由来であるとか言われています。別名として面影草（おもかげぐさ）とか鏡草（かがみぐさ）が知られていますが、これは室町時代に編纂された「蔵玉和歌集」（ぞうぎょくわかしゅう）に描かれた、結ばれることのできない恋人同士が、お互いの顔をうつした鏡を地面に埋めたところ、そこから山吹の花が咲いたと言う伝説が由来だと言われています。
またイギリスでは、ジャパニーズローズ「日本のバラ」とかイエローローズ「黄色いバラ」と呼ばれているそうです。
ちなみに花言葉は、「気品」（きひん）・「崇高」（すうこう）・「金運」（きんうん）「待ちかねる」などです。

ヤマブキには、花びらの重なり方に一重（ひとえ）や七重（ななえ）、八重（やえ）のものがありますが、八重のヤマブキは、雄蕊（おしべ）・雌蕊（めしべ）が退化し実がならないため、地下茎（ちかけい）と呼ばれる枝を地中に伸ばし増えていくそうです。この、実がならないということから連される有名な話があります。
江戸城を築城した太田道灌（おおたどうかん）が、タカ狩りの途中、雨が急に降り出したため、近くの農家で蓑（みの）を借りようとしたところ、農家の娘は一凛のヤマブキの花を差し出したそうです。
太田道灌は、このことに立腹したものの、後になって平安時代後期に編纂された「後拾位和歌集」（ごじゅいわかしゅう）に収められている、兼明親王（かねあきらしんのう）の「七重八重　花は咲けども山吹の実のひとつだに　なきぞかなしき」という歌を踏まえ、ヤマブキの実と雨合羽としての蓑をかけて、貧しくて蓑を お渡しすることができませんという意味であったことを知り、以後和歌を学び歌人としても名を残すようになったそうです。
埼玉県越生町（おごせまち）には、この伝説の舞台となったと言われる山吹の里が、公園として整備されていて約3000株のヤマブキが植えられているそうです。
もう一つヤマブキというと、木曽義仲（きそよしなか）こと源義仲（みなもとよしなか）に仕えていたとされ、「平家物語」や「源平盛衰記」（げんぺいせいすいき）に登場する3人の便女（びんじょ）、巴御前（ともえごぜん）、葵御前（あおいごぜん）、山吹御前（やまぶきごぜん）が思い起こされます。
源頼朝と決裂し追われる身となった義仲に、体を壊し ついていくことができず、京にとどまることになった山吹御前は、義仲が亡くなった後、現在の愛媛県 伊予市（いよし） 双海町（ふたみちょう） 上灘（かみなだ）に落ち延びました。上灘川（かみなだがわ）に沿って山を登り始めたものの、次第に弱っていく山吹御前を、お供の者が竹で作った笹舟に乗せ山頂まで引き上げたそうです。

今でも現地では、山吹御前神社や曳き坂（ひきざか）、衣装替え地（ころもがえち）、築楯（ついたて）など、ゆかりの地名が数多く残っているそうです。なぜか、鎌倉時代を扱った歴史書の「吾妻鏡」（あずまかがみ）には、山吹御前の名前が出てこないというから、ちょっとミステリアスな感じのお話ですね。

古くから万葉集をはじめ、様々な和歌で詠まれていて、歴史物語にも、その名を纏（まと）った多くの登場人物が描かれている、そんなヤマブキを見に、みぬま見聞館の自然庭園を訪れてみてはいかがでしょうか。

 ヤマブキ 一斉に咲く様子はとてもキレイです	 ヤマブキのつぼみ 可愛らしいいのですがあっという間に咲きます
 ヤマブキの花 鮮やかな色合いで山吹色というのは印象的です	 シロヤマブキの花 属は違いますが同じ時期に咲きます
 フジの花 自然庭園の東門のところに藤棚があります	 ニリンソウ その名の通り二輪ずつ花が咲いています

ヒトリシズカ

不思議な感じの花を咲かせます

ハナイカダ

意外な場所にひっそりと花を咲かせます

コデマリ

小さな花が集まりキレイに咲きます

ジュウニヒトエ

写真は花のアップです、これも不思議なカタチです

キジムシロ

地に咲く明るい黄色の花です

ホウチャクソウ

木陰にひっそりと佇んみ、咲きます